

白い歓喜天

司馬遼太郎

「白い歓喜天」

を推す

今 東光

この一巻に収められた諸作品は、最も特異な風格の作家による短篇である。この作家は面白い説話文学を提唱しながら、実は純粹な文芸の領域で、何人もまだ手を染めない処女地に鐵を入れはじめたと思うのである。若し小説を本当に愛する人ならば、これ等の諸篇から小説らしい小説を発見することが出来るだろう。